

美浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略
施策に関する平成30年度進捗管理調書

目 次		1
1 新しい「美浦村」づくり		
1－1 1 小さな拠点の推進		2
1－2 2 企業・産業の支援		3
1－3 3 美浦ブランドの確立		4
2 見たい・住みたい・住み続けたい魅力あるまちづくり		
2－1 4 移住定住環境の整備		5
2－2 5 地域活性化の推進		6
2－3 6 美浦だけの魅力づくり		7
3 子育て・子育てにやさしいまちづくり		
3－1 7 子供の保育・居場所の充実		8
3－2 8 子育て世代に対する経済的支援		9
3－3 9 美浦教育の質の向上		10
4 安心して暮らしやすいまちづくり		
4－1 10 安全な暮らしを守る		11
4－2 11 生活環境の整備		12

基本目標	1	新しい「美浦村」づくり
施策	1-1	小さな拠点の推進
施策No.	1	小さな拠点の推進

施 策 名 称	小さな拠点の推進					
担 当 部 署	経済課					
施 策 の 概 要	① これまで本村の中心市街地が不形成となっていたことから、村民の地域交流や生活利便、また村外からの来訪者の観光や滞留等の拠点が未整備となっており、地域活力を十分に集約發揮することができなかった。そのため、役場周辺地区内の基盤整備において、その拠点及び機能を集約する地区を造成し、本村の中心市街地を形成する。 ② 小さな拠点構想に基づき、地域交流館みほふれ愛プラザを中心とした施設及び付随する機能を整備する。					
重 要 業 績 評 価 指 標 (KPI)	区 分	現状値 平成25年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	物産館等での販売額 (千円)	19,000	80,000	97,256	128.3%	91,668 119.1%
	買い物地元吸収率(%)	6.07	8.00	10.20	214.0%	10.49 131.1%
平成30年度の 取り組み状況	地域産品直売所においては本村及び近隣市町村の農産物及び加工品の販売に加えて、かあさんの台所を利用した惣菜、弁当等の販売及び(株)まちづくり美浦からの仕入品・加工品の委託販売を行った。なお、売り上げの向上を図るため、(株)まちづくり美浦や出荷者による店頭販売や、大洗新鮮組による海産物販売、商工会による商工出店会などを行うとともに、かあさんの台所では年間を通し新商品の開発を行った。また、国道125号バイパスが大谷地区トレセン進入路まで開通したことにより、売上及び利用者が向上した。					
今後の展開	地区計画により地域交流館及びカスミ美浦店等の商業施設が開業2年目を迎え、また国道125号線バイパスが一部開通したことにより村民並びに周辺地域住民の交流・生活の利便性を高めることができたため、残る地区計画の部分についても住民及び本村に来訪する方々が交流できる場としての機能向上に関する整備を村挙げて取り組んでいく。 今後は、誰もが楽しめるようなみほふれ愛マルシェ等イベントを企画し、さらなる集客と売上増加を図る。					
備 考	※ 物産館等の販売額KPIは美浦村地域再生計画(第34回認定)に基づく。 ※ 買い物地元吸収率は、美浦中学校1年生の保護者に対するアンケート結果による。 ※ 【参考】H28年度実績値達成率の欄、上段はH28実績値・下段はH28達成率。以下、全項目共通。					

基本目標	1	新しい「美浦村」づくり
施策	1－2	企業・産業の支援
施策No.	2	企業・産業の支援

施策名称	企業・産業の支援					
担当部署	都市建設課					
施策の概要	① 本村の立地環境を生かし、積極的に企業誘致・優遇措置を講じる。 ② 村内事業者への経営支援を行う。 ③ 企業や関係機関等と連携し、雇用情報の一元管理・提供の体制を構築する。 ④ 産業後継者確保の視点から、結婚促進を図る。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	企業誘致数(事業社)	3	5	0	-150.0%	5 100.0%
平成30年度の 取り組み状況	既設事業者の業務の円滑化に向けた周辺道路の整備支援を行い、道路の拡張を行った。 既工場の増築で2社・生産施設拡張が1社行い機能強化を図った。企業誘致条例に基づいた奨励金交付 が1社、旧条例経過措置による固定資産材の課税免除措置については4社行った。					
今後の展開	企業誘致に向け、民間企業と進出交渉、地権者や関係機関との調整などに取り組んでいく。進出や事業拡大した企業に対しての優遇措置について継続する。					
備考						

基本目標	1	新しい「美浦村」づくり
施策	1－3	美浦ブランドの確立
施策No.	3	美浦ブランドの確立

施策名称	美浦ブランドの確立					
担当部署	企画財政課					
施策の概要	① パプリカ・マッシュルーム等を中心とした6次産業化を図ることで、美浦産品のブランド化及び新規産業による雇用の創出を図る。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	商品開発数(品)	実績なし	3	13	433.3%	10 333.3%
平成30年度の 取り組み状況	平成29年度までに開発された10商品に加え、「かあさんの台所」で地元商品を取り入れた商品化に取り組み、和牛のビーフシチュー、おにぎりサンド、カレーコロッケを開発し新たに製品化された。また、(株)まちづくり美浦が6次産業の商品化に取り組み、販売していた安中いちごサイダーの味を改良し、二代目安中いちごサイダーとして商品化された。					
今後の展開	引き続き、新たな6次化商品メニューの研究開発の支援を行うとともに、美浦村HP、ふるさと納税サイトやイベント等により広く周知を図りたい。					
備考	※これまで開発された商品 ①美浦産パプリカスープ②美浦産マッシュルームのスープ③美浦の美味しいかぼちゃスープ④美浦の美味しいコーンスープ⑤美浦野菜たっぷりのチキンカレー⑥美浦産マッシュルームのアヒージョ⑦美浦野菜たっぷりの鹿肉カレー⑧美浦野菜たっぷりの鹿肉シチュー⑨ライスワイン焼酎⑩安中いちごサイダー→二代目安中いちごサイダー⑪和牛のビーフシチュー⑫おにぎりサンド⑬カレーコロッケ					

基本目標	2	新しい「美浦村」づくり
施策	2-1	移住定住環境の整備
施策No.	4	移住定住環境の整備

施策名称	移住定住環境の整備					
担当部署	企画財政課					
施策の概要	① 定住促進を図るため、転出者との継続的な交流や空き家バンクを利活用し、本村への移住促進を行う。 ② 「小さな拠点」を中心とした村内外の公共交通網の整備を図り、小さな拠点の機能強化及び地域の活性化を促進する。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	美浦村人会登録者数 (人)	実績なし	(転出者に占める10.0%)人	実績なし	0.0%	実績なし 0.0%
	空き家バンクの成約件数 (件)	(登録件数に占める67.0%)件	(登録件数に占める70.0%)件	登録件数に占める87.8%件	693.3%	31(登録件数に占める100.0%)件 97.1%
平成30年度の 取り組み状況	美浦村人会は、美浦村に住んでいた方が登録することによって転出した後も美浦村からの情報提供等により交流を図り、将来の定住候補者を創造することを目的にしているが、平成30年度は具体的な制度設計の進捗は少なく登録の実績なしとなった。 空き家バンクは、これまで登録された物件41件のうち36件が成約されており、登録件数に占める成約件数割合は87.1%となっている。					
今後の展開	美浦村人会については、登録することによって期待される住民及び村の効果並びに手続きから運用に関する方策を今後も検討していく。 空き家については、今後も増加していくと見込まれるが、活用を図るため空き家バンクに積極的に登録してもらうよう村のHPで広報するとともに関係業界に働き掛けていく。					
備考						

基本目標	2	新しい「美浦村」づくり
施策	2-2	地域活性化の推進
施策No.	5	地域活性化の推進

施策名称	地域活性化の推進					
担当部署	経済課・生涯学習課					
施策の概要	① 観光地化事業を中心に、村内の地場・観光資源を集約し、地域の活性化を図る。 ② 村内を中心とした地域交流行事のほか、村外から来訪を望めるイベントを開催する。また、霞ヶ浦湖岸の活用、県や近隣自治体との広域連携による観光事業を実施する。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	交流人口(人)	42,352	43,440	25,310	-1566.4%	37,385 -456.5%
平成30年度の 取り組み状況	交流人口の促進を図る事業として、平成30年度は、みほ産業文化フェスティバル等を実施したが、木原城山まつりが暴風雨により中止されたため来場者数が大幅減となった。 なお、数値には反映されていないが総延長約180kmのつくば霞ヶ浦りんりんロードが設定されたこと等により、多くのサイクリストが村内のコースを訪れていると思われる。					
今後の展開	現在実施されている事業に加え、今後の交流人口の増加が期待できる霞ヶ浦の観光資源を活用した事業やつくば霞ヶ浦りんりんロードを利用するサイクリストを取り込んでいくことを検討し更なる交流人口の増加を図っていく。					
備考	※ 総合戦略においては、基本目標2「見たい・住みたい・住み続けたい魅力あるまちづくり」中の「施策3 美浦だけの魅力づくり」における「来場者」に、本施策中「② 交流人口の促進」による来訪見込みを加味した数値を「交流人口」として取り扱うものとする。					

基本目標	2	新しい「美浦村」づくり
施策	2-3	美浦だけの魅力づくり
施策No.	6	美浦だけの魅力づくり

施策名称	美浦だけの魅力づくり					
担当部署	経済課・生涯学習課					
施策の概要	① 地域交流拠点を中心に土地利用の見直し、活用方法の検討を行い、本村への村外からの来訪者の増加を目指す。 ② 美浦トレセンと連携し、来訪者の増加及び村内観光ルートへの誘導を図り、地域活性を図る。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	来場者等集客数(人)	32,352	32,440	19,610	-14479.5%	31,585 -871.6%
平成30年度の 取り組み状況	スポーツ等を通し重要な交流拠点となっている光と風の丘公園でスポーツ大会を実施したり、来場者が安全安心に過ごすことができるよう整備管理を行ったほか、美浦村文化財センターでも縄文文化を学ぶ陸平学園を催した。 また、JRA美浦トレーニング・センター所在する「競走馬の里・美浦」のPRとして中山競馬場での美浦ステークス事業やG I レース優勝馬の電光掲示を行った。					
今後の展開	ふれ愛プラザが所在する小さな拠点と連携し村内に多くの来場者に来ていただき交流人口を増加させるため、JRA美浦トレーニング・センターをはじめとする村内各事業所等との連携を図るとともに、東京医科歯科大学霞ヶ浦分院跡地に限らず村内の観光資源として期待される場所の有効活用を検討していく。					
備考	※ 本村内には入込拠点の指定(県)がないため、本村独自に陸平貝塚(体験事業)・光と風の丘公園(施設利用)・美浦トレセン(ツアー事業)による集計を行い、「来場者等集客数」として取り扱うものとする。					

基本目標	3	子育て・子育てにやさしいまちづくり
施策	3-1	子供の保育・居場所の充実
施策No.	7	子供の保育・居場所の充実

施策名称	子どもの保育・居場所の充実					
担当部署	子育て支援課					
施策の概要	① 子ども・子育て新制度に基づく、子育て支援を充実し、地域と連携した子育て環境の良質化を図る。 ② ブックスタート事業をとおり、乳幼児期の親子のふれあい、乳児の活字への慣れを支援する。 ③ 出産や子育てに不安を抱える家庭への相談支援や、保護者同士の交流を企画し、支えあいによる子育て支援を目指す。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	子育て支援センター延べ利用者(人)	実績なし	12,000	14,890	124.1%	17,005 141.7%
平成30年度の 取り組み状況	地域交流館みほふれ愛プラザ内に子育て支援センターを設置して2年目となる平成30年度は、継続して利用していただけるよう子育て広場のイベントを充実させた。また、本村の子育て支援の拠点であることが周知され、利用者は地域交流館みほふれ愛プラザの事業開始となった昨年度と比較すると減少したものの、目標値の12,000人を上回る実績となった。					
今後の展開	子育て支援センターを村内の子育て世代へ引続き広く周知するとともに、今年度より児童館から移行した幼児クラブや母親クラブについて利用状況を把握し、子育て世代を支える活動となるよう進めていく。					
備考	地域交流館の交流スペースとは、地域交流館の「子育て支援センター」部分をいう。					

基本目標	3	子育て・子育てにやさしいまちづくり
施策	3-2	子育て世代に対する経済的支援
施策No.	8	子育て世代に対する経済的支援

施策名称	子育て世代に対する経済的支援					
担当部署	子育て支援課					
施策の概要	① 子どもの医療負担に係る助成を行い、安心した子育てを支援する。 ② 2人以上という出生希望を叶えるため、多子世帯への支援を行う。 ③ 対象児童保護者に対し、就学に必要な費用を支援し、就学を支援する。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	多子世帯保育料軽減事業の交付件数(件)	130	60	137	-10.0%	85 64.3%
平成30年度の 取り組み状況	子どもを2人以上持つ支援対象世帯に対して、3歳未満児が幼稚園及び保育所に入園入所している保護者の利用者負担を軽減することにより、多子世帯の保育に関する経済的負担を軽減し子育て世代の環境改善を図った。					
今後の展開	県の実施要綱に基づき、事業を継続					
備考						

基本目標	3	子育て・子育てにやさしいまちづくり
施策	3-3	美浦教育の質の向上
施策No.	9	美浦教育の質の向上

施策名称	美浦教育の質の向上					
担当部署	学校教育課					
施策の概要	① 教職員・教材等の導入等支援を行い、社会力向上を目的とした教育の質の向上を図る。 ② 生徒が国際社会の一員としての自覚を持つとともに、異文化との交流経験を成長の糧とするために、台北市立敦化中学校との学校間交流を行う。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	[村立中学校]学校評価に関する生徒アンケート(%)	81.0	85.0	89.0	200.0%	90.0 225.0%
	[村立中学校]学校評価に関する保護者アンケート(%)	93.0	95.0	91.0	-100.0%	94.0 50.0%
平成30年度の 取り組み状況	学校評価に関するアンケートは、文部科学省の「学校評価ガイドライン」に準拠しながら、本村独自の学校評価項目を設定して行った結果を採用している。全生徒及び保護者も評価対象としており、平成30年度の生徒の学校評価については昨年度に引き続き目標値を達成しているが保護者については昨年度より3ポイント減少した。 平成30年度 生徒アンケート 45%(そう思う)44%(どちらかといえばそう思う) 計89% 平成30年度 保護者アンケート 44%(そう思う)47%(どちらかといえばそう思う) 計91%					
今後の展開	引き続き「美浦村教育プラン」「美浦村教育振興基本計画」により美浦村教育目標を実現するため、さまざまな施策を継続して実行していく。					
備考	※ 学校評価に関する児童・生徒アンケートの設問「学校は楽しい。」に対する回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をそれぞれの指標とする。 ※ 学校評価に関する保護者アンケートの設問「子どもは、学校が楽しそうだ。」に対する回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をそれぞれの指標とする。					

基本目標	4	安心で暮らしやすいまちづくり
施策	4-1	安全な暮らしを守る
施策No.	10	安全な暮らしを守る

施策名称	安全な暮らしを守る					
担当部署	総務課					
施策の概要	① 防災防犯対策を整えることで、安心安全な生活環境づくりを図る。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	自主防災組織の活動カバー率(%)	100.0	100.0	100.0	-	100.0 100.0%
平成30年度の 取り組み状況	現在、消防団が各行政区と協力し、防災・訓練等を実施している場合は、自主防災組織としての活動とみなすことから、カバー率は現在100%となっている。 取り組み状況としては、各地区の消防団が、担当地区と協力し防災及び防火等の訓練・点検を行っている。					
今後の展開	各行政区等をひとつの自主防災組織としてみなし、自主防災に必要な資機材等の購入に対する助成を行う。					
備考	※ 活動カバー率＝自主防災組織がその活動範囲としての地域の世帯数 / 管内世帯数					

基本目標	4	安心で暮らしやすいまちづくり
施策	4-2	生活環境の整備
施策No.	11	生活環境の整備

施策名称	生活環境の整備					
担当部署	都市建設課・福祉介護課					
施策の概要	① 生活環境の整備のため、上水道の加入支援を行う。 ② 住宅整備を支援し、定住化の促進を図る。					
重要業績評価指標(KPI)	区 分	現状値 平成27年度	目標値 令和元年度	実績値 平成30年度	目標値 (令和元年度) に対する達成率	【参考】 H29年度実績値 達成率
	住宅リフォーム改修補助 事業の交付件数(件)	19	14	10	180.0%	8 220.0%
	日常生活用具給付事業 (住宅改修費)の交付件 数(件)	1	2	1	0.0%	0 -100.0%
平成30年度の 取り組み状況	住民の有効な活用を図るべく、ホームページ及び広報等により広く周知を行った。 事業の改善策について検討した。					
今後の展開	対象となるリフォーム工事の内容を広げるなど、制度をより充実させる。					
備考						